

# 堀場製作所創立60年を迎えて



石田 耕三

Kozo ISHIDA

株式会社 堀場製作所  
代表取締役副社長  
工学博士

石田 耕三

堀場製作所は本年1月26日に創立60周年を迎えました。

堀場における分析計測技術をベースにした事業は、現、堀場雅夫最高顧問が60年前に開発したpH計を原点に、その開発精神のDNAを継承しながら、水、ガス、固体そして粒子の分析計測技術の開発と共に、アプリケーション技術との融合で市場ニーズに迅速に応えることで着実に成長してきました。とりわけ、この20年間、将来の発展を見据えた事業基盤強化のため、グローバル経営の強化の一環として海外企業のグループ化を進めると共に、技術、製品の多様化を積極的に図ってきました。そして60周年を迎えた今、名実ともに分析計測分野を担う世界有数の企業の仲間入りを果す事が出来ました。

その様な中であって、1990年に創刊した技術誌READOUTは、お客様と堀場の技術開発を結ぶ架け橋として弊社の成長を縁の下で支えてきました。そして、今回発刊40号という節目を迎える事になりました。これもひとえに読者の皆様方のご支援ご理解の賜物であり、とりわけ論文の寄稿を頂いた多くの皆様方のご協力の賜物と感謝いたします。また、編集に携わってきた国内外の関係者の努力の結晶であると深く敬意を表します。

科学、技術の進歩発展は、太陽系が存続する限りにおいて、地球上で営まれる人類の生命活動を維持継続してゆくために、誰しものが疑うことのない普遍的であって重要であると考えます。技術誌を創刊して今日まで20年を振り返ってみると、その僅かな時間の中で世の中は自然科学の大きな進展、飛躍的な技術の進歩

そして新たな産業の創出など激しく変化してきました。半導体技術の加速的な進化は通信、世界の情報ネットワークの革命を起し、政治や経済にさらには文化面においても新たな時代、パラダイムシフトをもたらそうとしています。また、昨年のノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥博士のiPS\*<sup>1</sup>細胞の発見は医療創薬の領域での革命を予感するものです。これらの革新的な科学・技術の進歩には必ず分析計測技術の進化が伴っていることは疑いの余地はありません。創立50周年(2012年)に創設された堀場雅夫賞は科学技術の進歩を縁の下で支える分析計測技術の発展に貢献され、将来嘱望される若手研究開発者を対象としたユニークな賞で、科学技術の進歩に大いに貢献できるものと期待されています。

この堀場雅夫賞の受賞者の受賞論文や審査を御願ひした諸先生方にも本誌に寄稿を頂き、まさに双方向の交流の架け橋として、内容の充実を図ると同時に、この技術誌のグローバルな発信にも積極的に取り組み、世界のユーザーにより広くお読み頂く機会を作ってきました。この間、編集委員長として企画編纂を担当させていただきましたが、科学技術の革新が一層加速される時代に、新たな視点を持ってREADOUTをさらに発展させて行く新たな力が必要です。今後お客様にとって「プレミアムな技術の架け橋」として進化させるために、今回の発行を期して、編集委員長のタスキを足立開発本部長に渡すことに致しました。

新しい編集委員長へのこれまで以上のご支援を御願ひすると同時に、本誌を支えていただいた読者の皆様、ご投稿いただいた専門分野の研究者、技術者の皆様、編集に尽力いただいた関係者の皆様に重ねて心から感謝の意を表します。

\*1 : iPS : induced pluripotent stem cell